(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3710076号
(P3710076)
(45)発行日　平成17年10月26日(2005.10.26)　(24)登録日　平成17年8月19日(2005.8.19)

(51)Int.Cl.[7]　F I
A63F 7/02　A63F 7/02 318

請求項の数 2 (全 12 頁)

(21)出願番号　特願平9-284361
(22)出願日　平成9年9月30日(1997.9.30)
(65)公開番号　特開平11-104310
(43)公開日　平成11年4月20日(1999.4.20)
審査請求日　平成10年12月25日(1998.12.25)
審判番号　不服2000-18098(P2000-18098/J1)
審判請求日　平成12年11月14日(2000.11.14)

(73)特許権者　000241234
豊丸産業株式会社
愛知県名古屋市中村区長戸井町３丁目１２番地
(74)代理人　100095278
弁理士　犬飼　達彦
(72)発明者　鈴木　淳智
名古屋市中村区長戸井町３丁目１２番地
豊丸産業株式会社内

合議体
審判長　木原　裕
審判官　中村　和夫
審判官　渡戸　正義

最終頁に続く

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
予め決められた順序で複数の図柄を変動表示可能であり、少なくとも３図柄を表示可能な第１図柄表示部と第３図柄表示部と、少なくとも１図柄を表示可能な第２図柄表示部を有し、
第１図柄表示部と第２図柄表示部と第３図柄表示部に表示の図柄とで、予め決められたＡライン、Ｂライン及びＣラインの何れか１つのラインに大当たり図柄が確定表示されると遊技者にとって有利な特別遊技状態が生起する遊技機であって、
特別遊技状態には第２特別遊技状態と、この第２特別遊技状態に比して遊技者に有利な第１特別遊技状態を含み、
第１図柄表示部、第２図柄表示部及び第３図柄表示部に表示の図柄には特定図柄と非特定図柄を含み、特定図柄で大当たり図柄が表示されると第１特別遊技状態が、非特定図柄で大当たり図柄が表示されると第２特別遊技状態が生起し、
前記Ａラインに非特定図柄による大当たり図柄を一旦停止表示した場合には、特定図柄による大当たり図柄、非特定図柄による大当たり図柄及び外れ図柄の組合せを前記第１図柄表示部、第２図柄表示部及び第３図柄表示部に表示可能に形成され、その後、第１図柄表示部と第２図柄表示部と第３図柄表示部に表示の図柄を、遊技者が変動する全ての図柄が判る程度の同じ速度で同方向に再変動して、Ａラインに特定図柄による大当たり図柄又は非特定図柄による大当たり図柄を確定表示し、
前記Ｂラインに非特定図柄による大当たり図柄を一旦停止表示した場合には、特定図柄

による大当たり図柄、非特定図柄による大当たり図柄及び外れ図柄の組合せを前記第１図柄表示部、第２図柄表示部及び第３図柄表示部に表示可能に形成され、その後、第１図柄表示部と第２図柄表示部と第３図柄表示部に表示の図柄を、遊技者が変動する全ての図柄が判る程度の同じ速度で同方向に再変動して、Ｂラインに特定図柄による大当たり図柄又は非特定図柄による大当たり図柄を確定表示し、

前記Ｃラインに非特定図柄による大当たり図柄を一旦停止表示した場合には、特定図柄による大当たり図柄、非特定図柄による大当たり図柄及び外れ図柄の組合せを前記第１図柄表示部、第２図柄表示部及び第３図柄表示部に表示可能に形成され、その後、第１図柄表示部と第２図柄表示部と第３図柄表示部に表示の図柄を、遊技者が変動する全ての図柄が判る程度の同じ速度で同方向に再変動して、Ｃラインに特定図柄による大当たり図柄又は非特定図柄による大当たり図柄を確定表示し、

前記一旦停止表示は、大当たり図柄を僅かに上下変動する表示態様であることを特徴とする遊技機。

【請求項２】

一旦停止表示の大当たり図柄が特定図柄であるときには、再変動しないことを特徴とする請求項１の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、複数の図柄を変動表示する図柄表示部を有する遊技機に関する。

【０００２】

【従来の技術】

遊技機としてのパチンコ機には、複数の図柄を変動表示可能な複数の図柄表示部を有する特別図柄表示器が配設してあり、遊技球が図柄始動口に入賞することによって、前記各図柄表示部の図柄が変動を開始し、所定時間後に、順次図柄が停止し、その確定図柄の組合せが、例えば、水平（Ａライン）、左傾斜（Ｃライン）、右傾斜（Ｂライン）の図柄表示部において、全て同じ図柄であるとき、遊技者にとって有利な特別遊技状態（大当たり）が生起するというものがあり、この形式の遊技機として、特開平７－３２８２００号公報、特開平８－３１８０３３号公報等がある。

【０００３】

特開平７－３２８２００号公報について概説すると、第１図柄表示部Ｌ11、Ｌ21、Ｌ31、第３図柄表示部Ｌ13、Ｌ23、Ｌ33及び第２図柄表示部Ｌ22には、順序よく羅列してある図柄「０～Ｅ」が変動表示可能である。

そして、遊技球が図柄始動口に入賞すると、前記の図柄表示部は一斉に変動図柄が表示開始し、先ず、第１図柄表示部Ｌ11、Ｌ21、Ｌ31が、続いて、第３図柄表示部Ｌ13、Ｌ23、Ｌ33が停止する。

そして、中央水平ライン（Ａライン）の第１図柄表示部Ｌ21と第３図柄表示部Ｌ23、右傾斜ライン（Ｂライン）の第１図柄表示部Ｌ11と第３図柄表示部Ｌ33、左傾斜ライン（Ｃライン）の第３図柄表示部Ｌ13と第１図柄表示部Ｌ31に、各々同じ図柄を表示したときにはリーチとして、大当たりとなる可能性があり、遊技者は期待感を持つ。

【０００４】

即ち、このリーチは、第２図柄表示部Ｌ22に、前記各図柄表示部Ｌ21とＬ23、Ｌ11とＬ33、Ｌ13とＬ31に表示の、何れかの図柄（３通りの図柄）が表示されると、大当たりとなるから、所謂、トリプルリーチと称している。

そして、このリーチ態様を生起可能にするために、第１図柄表示部Ｌ11、Ｌ21、Ｌ31と第３図柄表示部Ｌ13、Ｌ23、Ｌ33において、表示する図柄の順序を逆順序に構成してある。

即ち、第１図柄表示部Ｌ11、Ｌ21、Ｌ31には「０～Ｅ」の順方向に、第３図柄表示部Ｌ13、Ｌ23、Ｌ33には「Ｅ～０」の逆順序方向に表示可能に構成して、その出現を可能にしている。

【０００５】

一方、特開平８－３１８０３３号公報には、所謂、トリプルリーチ、ダブルリーチ及びシングルリーチを可能とする遊技機が開示してあり、例えば、ダブルリーチは、右傾斜ライン（Ｂライン）の第１図柄表示部Ｌ11と第３図柄表示部Ｌ33、左傾斜ライン（Ｃライン）の第３図柄表示部Ｌ13と第１図柄表示部Ｌ31に、各々同じ図柄を表示可能とするものであり、第２図柄表示部Ｌ22が２通りの図柄で大当たりを生起するものである。そして、ダブルリーチを生起可能にするため、第１図柄表示部Ｌ11と第３図柄表示部Ｌ33、第１図柄表示部Ｌ13と第３図柄表示部Ｌ31に相当する図柄が同じとなるように配列してある。
即ち、この遊技機は、トリプルリーチ、ダブルリーチ及びシングルリーチを可能となるように図柄が配列してある。

【０００６】

【発明が解決しようとする課題】
前記特開平７－３２８２００号公報は、リーチ態様は、常時、トリプルリーチであり、どのライン（Ａ、Ｂ、Ｃ）に大当たり図柄が表示されるかによって、特別遊技状態が終了後に、遊技者にとって有利な状態になるか否かが判定される。
又、特開平８－３１８０３３号公報は、リーチ態様として、トリプルリーチ、ダブルリーチ及びシングルリーチの出現を可能にするが、トリプルリーチ、ダブルリーチ態様は各々１態様である。
そこで、本発明は、更に、遊技者に興味を与えることを可能とする図柄組合せを提供するものである。

【０００７】

【課題を解決するための手段】
請求項１の遊技機は、予め決められた順序で複数の図柄を変動表示可能であり、少なくとも３図柄を表示可能な第１図柄表示部と第３図柄表示部と、少なくとも１図柄を表示可能な第２図柄表示部を有していて、第１図柄表示部と第２図柄表示部と第３図柄表示部に表示の図柄とで、予め決められたＡライン、Ｂライン及びＣラインの何れか１つのラインに大当たり図柄が確定表示されると遊技者にとって有利な特別遊技状態が生起する。
又、特別遊技状態には第２特別遊技状態と、この第２特別遊技状態に比して遊技者に有利な第１特別遊技状態があり、第１図柄表示部、第２図柄表示部及び第３図柄表示部に表示の図柄には特定図柄と非特定図柄を含み、特定図柄で大当たり図柄が表示されると第１特別遊技状態が、非特定図柄で大当たり図柄が表示されると第２特別遊技状態が生起する。
そして、Ａラインに非特定図柄による大当たり図柄を僅かに上下変動する表示態様で一旦停止表示した場合には、特定図柄による大当たり図柄、非特定図柄による大当たり図柄及び外れ図柄の組合せを前記第１図柄表示部、第２図柄表示部及び第３図柄表示部に表示可能に形成され、その後、この一旦停止表示の第１図柄表示部と第２図柄表示部と第３図柄表示部に表示の図柄を、遊技者が変動する全ての図柄が判る程度の同じ速度で同方向に再変動し、この再変動後に、Ａラインには特定図柄による大当たり図柄又は非特定図柄による大当たり図柄を確定表示して、大当たり表示を行う。又、Ｂライン及びＣラインにおいても、前記Ａラインと同様な表示を行う。
そのため、Ａライン、Ｂライン又はＣラインに、非特定図柄による大当たり図柄が一旦停止表示したときには、遊技者に再変動することを知らせる。このとき、前記第１図柄表示部、第２図柄表示部及び第３図柄表示部には特定図柄による大当たり図柄、非特定図柄による大当たり図柄及び外れ図柄の組合せが形成され、各図柄表示部を同じ速度で同方向に再変動すると、特定図柄による大当たり図柄、非特定図柄による大当たり図柄及び外れ図柄の組合せが表示される可能性があると共に、前記大当たり図柄を一旦停止表示した同じラインに、特定図柄による大当たり図柄を確定表示する可能性があるので、遊技者に期待を持たせることができる。

【０００８】

又、請求項２の遊技機は、一旦停止表示の大当たり図柄が特定図柄であるときには、再変動しないので、必ず、特定図柄での大当たりとすることによって、遊技者が安心して遊

技することを可能にする。
【００１０】
【発明の実施の形態】
（第１の実施の形態）
図１（正面図）は遊技機としてのパチンコ機１を示し、このパチンコ機１は、カードユニット２０と対をなし、このカードユニット２０にはカードリーダ（図示略）が内蔵してある。又、このカードユニット２０の正面パネル２１には、このカードユニットの作動が有効であるときの表示ランプやカード挿入口２２が設けてある。一方、パチンコ機の前面パネル１１に取り付けてある供給皿１２には、前記カードユニット２０の操作釦等が配設してあり、具体的には、前記カード挿入口２２に挿入されたカードの残高（度数）等を表示する表示器１３ａ、遊技者の操作によりカードユニット２０を介してパチンコ機に貸球を供給する変換釦１３ｂ、カード返却用の返却釦１３ｃが設けてある。
【００１１】
尚、供給皿１２の下には貯留皿１７が配設してあって、供給皿１２が満杯となったときオーバーフローした賞品球を貯留する。又、発射装置のハンドル１８の操作により前記供給皿１２からの１球毎に供給される遊技球をガイドレール２で案内して遊技領域３に発射する。
遊技領域３のほぼ中央部には、複数の変動図柄を介して図柄可変ゲームを行う特別図柄表示器Ｌが配置してあり、この特別図柄表示器Ｌには液晶式の特別図柄表示部ＬAを有している。
そして、図柄可変ゲームにおける一態様として、前記特別図柄表示部ＬAには図２（Ａ）に示すように、少なくとも３図柄表示可能な第１図柄表示部Ｌ11、Ｌ21、Ｌ31と第３図柄表示部Ｌ13、Ｌ23、Ｌ33、及び、少なくとも１図柄を表示可能な第２図柄表示部Ｌ22として区分表示される（図２（Ａ）（Ｂ））。即ち、第２図柄表示部は、リーチ、大当たり図柄を表示するために、本実施の形態で採用のＬ22だけでもよいが、Ｌ12、Ｌ32に、他の図柄（キャラクター）等を表示してもよい。
【００１２】
そして、それらの図柄表示部には図２（Ｃ）に示す図柄が変動表示され、第１図柄表示部Ｌ11、Ｌ21、Ｌ31には、原則的に図柄「１５～１」を逆順序方向に表示可能に配列してあるが、例えば、それらの図柄の中で、「５～１」の図柄（ブロック図柄）を選定し、そのブロック図柄を、図柄「１１と１０」の間に挿入して構成する。
従って、第１図柄表示部Ｌn1(ｎ＝１～３）には、「１５～１１」「５～１」「１０～６」の順序で、図柄の上部から下部に図柄が表れるように変動表示される。
一方、第３図柄表示部Ｌ13、Ｌ23、Ｌ33には、前記第１図柄表示部Ｌn1における図柄順序とは逆順序に、図柄「１～１５」の正順序で表示可能に構成する。
又、第２図柄表示部Ｌ22には、図柄「１～１５」又は図柄「１５～１」の何れの順序でもよいが、本例では「１～１５」の正順序で表示可能とする。
尚、図２（Ｃ）には、各図柄表示部Ｌn1、Ｌ22、Ｌn3における図柄の表示順序が矢印で示してあるが逆方向に表示してもよいし、更には、各図柄表示部Ｌn1、Ｌ22、Ｌn3における図柄方向は、各々任意の方向で表示してもよい。
【００１３】
また、特別図柄表示器Ｌの左右側部には、普通図柄始動ゲート４ａ、４ｂが備えてあり、遊技球が通過すると後述の大入賞口７に付設の普通図柄表示器８の図柄が変動を開始し、通常状態と有利状態で変更する所定時間経過後に停止し、その確定図柄が予め設定した図柄と一致したとき「当たり」となり、普通電動役物５の羽根５ａを所定時間開成する。尚、この当たりの判定は、よく知られた循環数で構成の普通カウンタＦｃを介して行い、この「当たり」の確率は１０／１００である。
【００１４】
そして、遊技球が普通電動役物５に入賞すると、所定数の賞品球を払い出すため、普通電動役物５の開成状態が多いほど遊技者にとって有利である。

尚、普通図柄表示器８の図柄が変動中に、遊技球が普通図柄始動ゲート４ａ、４ｂを通過すると、次回以降の普通図柄の図柄表示記憶として最大４個まで記憶されると共に、記憶数をランプ（ＬＥＤ等）Ｒに表示する。
また、これらの普通図柄始動ゲート４ａ、４ｂを通過した遊技球は、遊技領域３の中央下部に流下するように構成してあり、遊技領域３には、その他、普通入賞口９ａ、９ｂ等が配設してある。

【００１５】

一方、遊技球が前記普通電動役物５に入賞したときには図柄可変ゲームが行われ、この入賞球は検出器（図示略）を介して特別図柄始動信号が発生すると共に、図柄表示部Ｌ1n、Ｌ3n、Ｌ22が図柄変動表示を開始し、これらの図柄表示部Ｌ1n、Ｌ3n、Ｌ22の図柄が変動中に、遊技球が普通電動役物５に入賞すると、次回以降の特別図柄の変動表示記憶として最大４個まで記憶されると共に、記憶数を記憶ランプＬRに点灯して報知する。
又、前記特別図柄始動信号に基づいて、判定カウンタHc（０～３２９の循環カウンタ）の値を介して、通常状態（電源投入時）においては、大当たり（特別遊技状態）（判定カウンタHcの値「７」）であるか、後記で詳述するリーチ（トリプルリーチ（判定カウンタHcの値「１１～１３」）、ダブルリーチ（判定カウンタHcの値「１４～１８」）、シングルリーチ（判定カウンタHcの値「１９～３２」））か、リーチとならない外れ（前記以外の判定カウンタHcの値のとき）を判定する。

【００１６】

そして、先ず、第１図柄表示部Ｌ11、Ｌ21、Ｌ31が停止表示し、次に、第３図柄表示部Ｌ13、Ｌ23、Ｌ33が停止表示する。
そして、外れのときには、第２図柄表示部Ｌ22に外れ図柄を表示してこの図柄可変ゲームは終了する。
リーチのときには、トリプルリーチ、ダブルリーチ或いはシングルリーチ態様を表示した後、第２図柄表示部Ｌ22に外れ図柄を表示して、この図柄可変ゲームは終了する。
大当たりのときには、前記３つのリーチ態様の何れかを表示した後に、図２（Ｂ）に示すように、中央水平ライン（Ａライン）のＬ21、Ｌ22、Ｌ23、右傾斜ライン（Ｂライン）Ｌ11、Ｌ22、Ｌ33、左傾斜ライン（Ｃライン）Ｌ13、Ｌ22、Ｌ31に、各々同じ図柄（大当たり図柄）を表示する。

【００１７】

そして、大当たり（特別遊技状態）が生起すると、大入賞口７の開閉扉７ａをｔ秒間、開成を維持するか、遊技球がａ個入賞すると閉成し、前記開閉扉７ａが開成中に、大入賞口７内に設けられている特定領域（図示略）を遊技球が通過すると、大入賞口７が再度開成し、この動作を最大Ｘ回行う。従って、遊技者は多量の賞品球を得ることができる。

【００１８】

次に、前記構成における遊技機において、大当たりである場合、或いは大当たりとはならない場合のリーチ態様について、図３を参照して説明する。
（１）トリプルリーチ態様
このトリプルリーチ態様の例として、図３（Ａ）に示すように、第１図柄表示部Ｌ11、Ｌ21、Ｌ31に「１、２、３」を停止表示すると共に、第３図柄表示部Ｌ13、Ｌ23、Ｌ33に「３、２、１」を表示することによって生起する。
即ち、このトリプルリーチ態様は、中央水平ライン（Ａライン）の図柄表示部Ｌ21とＬ23、右傾斜ライン（Ｂライン）の図柄表示部Ｌ11とＬ33、左傾斜ライン（Ｃライン）の図柄表示部Ｌ13とＬ31には、各々、同じ図柄である「２」「１」「３」が表示されるため、第２図柄表示部Ｌ22に「１～３」の何れかが表示されると大当たりとなる。
又、他の例として、図３（Ａ’）に示すように、第１図柄表示部Ｌn1に「１３、１４、１５」、第３図柄表示部Ｌn3に「１５、１４、１３」の組合せがある。

【００１９】

（２）ダブルリーチ態様
このダブルリーチの態様例として、図３（Ｂ）に示すように、中央水平ライン（Ａライン

）の図柄表示部Ｌ21、Ｌ23が「１、１」、左傾斜ライン（Ｃライン）の図柄表示部Ｌ13、Ｌ31が「２、２」で揃ったときであり、第２図柄表示部Ｌ22に「１又は２」の何れかが表示されると大当たりとなる。
又、他のダブルリーチの態様として、図３（Ｂ’）に示すように、中央水平ライン（Ａライン）の図柄表示部Ｌ21、Ｌ23が「１０、１０」、右傾斜ライン（Ｂライン）の図柄表示部Ｌ11、Ｌ33が「９、９」で揃ったとき等である。
【００２０】
（３）シングルリーチ態様
この態様例として、図３（Ｃ）に示すように、左傾斜ライン（Ｃライン）の図柄表示部Ｌ31、Ｌ13が「１、１」であり、第２図柄表示部Ｌ22に「１」が表示されると大当たりとなる。
又、他の態様として、図３（Ｃ’）に示すように、右傾斜ライン（Ｂライン）の図柄表示部Ｌ11、Ｌ33が「１５、１５」で揃ったとき等である。
【００２１】
尚、前記の３種類のリーチ態様の選定は、例えば、大当たりを生起しないときであっても、前記判定カウンタＨcの値が「１１～１３」のときにはトリプルリーチ、「１４～１８」のときにはダブルリーチ、「１９～３２」のときにはシングルリーチとして表示することによって、遊技者に期待を与える。
又、大当たりであるときに選定する前記３種類のリーチ態様は、例えば、選定リーチカウンタ（循環数０～１５）を介して、０～２のときトリプルリーチ、３～７のときダブルリーチ、８～１５のときシングルリーチとする、等の方式がある。
【００２２】
以上のように、第１図柄表示部Ｌn1と第３図柄表示部Ｌn3における図柄の配列を逆順序にし、且つ、第１図柄表示部Ｌn1の図柄の中で「５～１」の図柄（ブロック図柄）を選定し、そのブロック図柄を何れかの図柄の間に挿入することによって、中央水平ライン（Ａライン）、右傾斜ライン（Ｂライン）、左傾斜ライン（Ｃライン）において、トリプルリーチ、ダブルリーチ或いはシングルリーチの態様を生起可能である。
【００２３】
（第２の実施の形態）
次に、前記第１実施の形態における遊技機とほぼ同じ構成であるが、大当たり（特別遊技状態）のときの大当たり図柄によって、異なる特別遊技状態が生起する遊技機について説明する。
この異なる特別状態には、図４に示すように、大当たりが終了後に有利状態（例えば、普通カウンタＦｃによる「当たり」の確率や判定カウンタＨcによる大当たりの確率を高確率に変更）が生起する第１特別遊技状態と、大当たり終了後には通常状態になる第２特別遊技状態であり、遊技者にとって、第１特別遊技状態の方が第２特別遊技状態に比して有利である。
又、他の方法には、第１特別遊技状態は第２特別遊技状態に比して、大当たり中における、大入賞口７の最高回数Ｘ回を増加させたりする方式等がある。
【００２４】
尚、この遊技機における第１図柄表示部Ｌn1、第３図柄表示部Ｌn3及び第２図柄表示部Ｌ22に表示する図柄は、図２（Ｃ）と同じであるが、第１特別遊技状態に変更する特定図柄として、図５（Ｂ）に示す丸印（赤色表示）の「１、３、５、７、９」とし、その他の無印（緑色表示）の図柄を非特定図柄とする。
【００２５】
この遊技機における大当たりまでのプロセスは、前記第１の実施の形態とほぼ同様であるが、大当たりのときの大当たり図柄の表示形態を異にする。
即ち、遊技球が普通電動役物５に入賞すると、図柄可変ゲームが行われ、図柄表示部Ｌ11～Ｌ31、Ｌ13～Ｌ33、Ｌ22が、図柄変動表示を開始し、大当たりであるときには、前記トリプルリーチ、ダブルリーチ又はシングルリーチの何れかのリーチ態様を表示した後に、

大当たり図柄を一旦停止表示し（実際には僅かに上下変動表示）、その後、最終的に、中央水平ライン（Ａライン）のＬ21、Ｌ22、Ｌ23、右傾斜ライン（Ｂライン）Ｌ11、Ｌ22、Ｌ33、左傾斜ライン（Ｃライン）Ｌ13、Ｌ22、Ｌ31に、各々同じ図柄を確定表示する形式である。

【００２６】

前記構成の遊技機の具体例として図５（Ａ）（Ｂ）を参照して説明すると、図５（Ａ）は、先ず、リーチ態様として、Ａラインに「１、１」とＣラインに「２、２」で揃ったダブルリーチを表示し、その後、大当たり表示として、第２図柄表示部Ｌ22に「１」を一旦停止表示した状態である。

このとき、第１図柄表示部Ｌn1、第３図柄表示部Ｌn3及び第２図柄表示部Ｌ22における、他の図柄の配列は、図５（Ｂ）に示すように、非特定図柄の「６、６、６」と「１１、１１、１１」が揃っている。

そこで、前記Ａラインで揃った「１、１、１」に対して、遊技者が変動図柄が判る程度の速度で、第１図柄表示部Ｌn1、第３図柄表示部Ｌn3及び第２図柄表示部Ｌ22の図柄を同方向（正順序又は逆順序）に再変動し、「１、１、１」、「６、６、６」、「１１、１１、１１」の何れかを確定表示すると、「１、１、１」であれば特定図柄での大当たり、「６、６、６」或いは「１１、１１、１１」が確定表示すると非特定図柄での大当たりにすることができる。

【００２７】

このように、第１図柄表示部Ｌn1、第２図柄表示部Ｌ22及び第３図柄表示部Ｌn3に変動表示する図柄の配列（図２（Ｃ））は、ある大当たり図柄を揃えると、他にも大当たり図柄の組合せが生ずる図柄の配列であり、面白みがある図柄配列を奏する。

そのため、前記したように、特に、遊技者に、大当たり図柄を一旦停止表示し、再度、大当たり図柄を確定表示まで図柄変動を行うとき、第１図柄表示部Ｌn1、第２図柄表示部Ｌ22及び第３図柄表示部Ｌn3に表示する図柄を同じ速度で変動表示すれば良く、変動操作が容易であるし、遊技者にとっても、一旦停止表示の図柄が非特定図柄であっても、再度の変動によって、特定図柄での大当たりとなる期待がある。

尚、大当たり図柄が、特定図柄「１、１、１」で一旦停止表示（実際には僅かに上下変動表示）されたときには、再変動をしない方式を採用することであってもよく、この方式によって、一旦停止表示の特定図柄での大当たり図柄は、必ず、特定図柄が確定図柄となるので、遊技者は安心して遊技を行う。

【００２８】

又、図６（Ａ）は、他の大当たり図柄であり、中央水平ライン（Ａライン）の第１図柄表示部Ｌ21、第２図柄表示部Ｌ22及び第３図柄表示部Ｌ23に「２、２、２」を一旦停止表示する。

この時、第１図柄表示部Ｌn1、第２図柄表示部Ｌ22及び第３図柄表示部Ｌn3に表示する図柄は、図６（Ｂ）に示すように、非特定図柄「１２、１２、１２」と特定図柄の「７、７、７」が揃っている。

そこで、「２、２、２」で一旦停止表示後に、遊技者が変動図柄が判る程度の速度で、第１図柄表示部Ｌn1、第３図柄表示部Ｌn3及び第２図柄表示部Ｌ22の図柄を同方向（正順序又は逆順序）に再変動し、非特定図柄の「２、２、２」「１２、１２、１２」か、特定図柄「７、７、７」の何れかを確定表示すると、遊技者は、一旦停止図柄が非特定図柄「２、２、２」であっても、特定図柄「７、７、７」を確定表示される場合があるので、期待を持つことができる。

【００２９】

図７（Ａ）は、Ｂラインでの大当たり図柄「１、１、１」で一旦停止表示した図であり、このとき、第１図柄表示部Ｌn1、第２図柄表示部Ｌ22及び第３図柄表示部Ｌn3に表示する図柄は、図７（Ｂ）に示すように、Ｂラインで非特定図柄「６、６、６」と「１１、１１、１１」が揃っている。そこで、「１、１、１」で一旦停止表示後に、遊技者が変動図柄が判る程度の速度で、第１図柄表示部Ｌn1、第３図柄表示部Ｌn3及び第２図柄表示部Ｌ22

の図柄を同方向（正順序又は逆順序）に再変動し、特定図柄「１、１、１」か、非特定図柄「６、６、６」「１１、１１、１１」の何れかを確定表示する。

【００３０】

尚、前記第１の実施の形態における遊技機の形式は、第２の実施の形態に例示する遊技機であってもよく、図柄として図２（Ｃ）に替えて、図５（Ｂ）に示す特定図柄と非特定図柄を区別する図柄を採用する。

そして、例えば、図３（Ａ）に示すトリプルリーチが生起したときには、第２図柄表示部Ｌ22には「１、２、３」の何れかで大当たりとなるが、遊技者は、特定図柄である「１」又は「３」で大当たりとなることを望む。

そして、「１、１、１」又は「３、３、３」の特定図柄で大当たりになると、図４に示すように、大当たりが終了後に、普通カウンタＦｃによる「当たり」の確率や判定カウンタＨcによる大当たりの確率を高確率に変更したり、大入賞口７の最高回数Ｘ回を増加させたりする第１特別遊技状態となるが、「２、２、２」の「非特定図柄」での大当たりは、大当たり終了後には通常状態になる第２特別遊技状態になる。

【００３１】

また、本発明は、前記第１の実施の形態及び第２の実施の形態に限定されず、「ブロック図柄」は、第１図柄表示部Ｌn1において形成する例をあげたが、第３図柄表示部Ｌn3で形成してもよいことはいうまでもない。

又、ブロック図柄に含まれる図柄の数は、５図柄に限定されないし、１図柄以上であればよいし、前記第１の実施の形態におけるブロック図柄の数は、単数ブロックであるが、複数ブロックで構成してもよい。

また、図柄表示部Ｌn1、Ｌ22、Ｌn3に表示する図柄は、数字「１～１５」であるが、数字に替えて、順序よく配列の花等の図柄であってもよいし、その図柄数は１５に限定されないし、特別図柄表示部ＬAにおける表示形態として、第１、第２及び第３図柄表示部を左、中、右の配置で縦方向の変動表示に替えて、上、中、下に配置して横方向の変動表示であってもよい。

また、最後に停止表示する第２図柄表示部Ｌ22の図柄は、図柄表示部Ｌn1、Ｌn3に表示する図柄に限定されず、図８に示すように、他の図柄を含んで構成してもよいし、更には、図柄「１～１５」のように順序良く配列する必要もない。

又、遊技機としてパチンコ機の他、スロットマシーン、テレビゲーム等の遊技機にも適用できることはいうまでもない。

【００３２】

【発明の効果】

請求項１の遊技機は、Ａライン、Ｂライン又はＣラインの何れか１つのラインに非特定図柄による大当たり図柄が、僅かに上下変動する一旦停止表示態様であると、遊技者に再変動することを知らせる。そして、第１図柄表示部、第２図柄表示部及び第３図柄表示部には特定図柄による大当たり図柄、非特定図柄による大当たり図柄及び外れ図柄の組合せが形成され、各図柄表示部を同じ速度で、且つ、同方向に再変動すると、特定図柄による大当たり図柄、非特定図柄による大当たり図柄及び外れ図柄の組合せが表示される可能性があると共に、前記大当たり図柄を一旦停止表示した同じラインに、特定図柄による大当たり図柄を確定表示する可能性があるので、遊技者に期待を持たせることができる。

又、請求項２の遊技機は、一旦停止表示の大当たり図柄が特定図柄であるときには、再変動しないことによって、必ず、特定図柄での大当たりとすることによって、遊技者が安心して遊技することを可能にする。

【図面の簡単な説明】

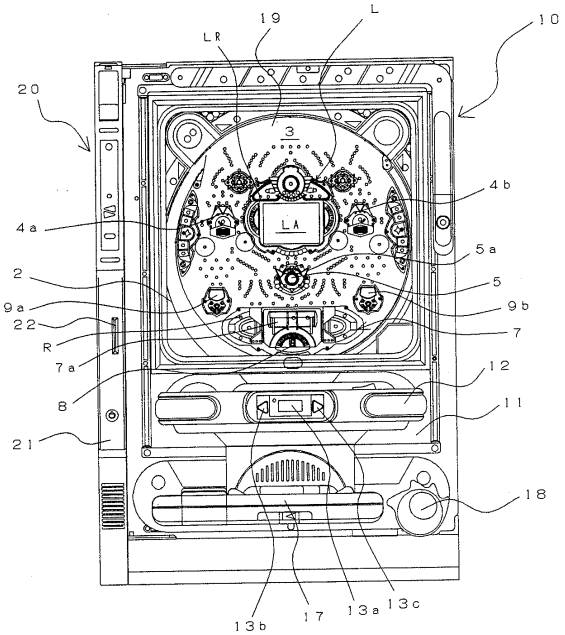
【図１】遊技機（パチンコ機）の正面図である。

【図２】（Ａ）は特別図柄表示部ＬAの拡大図、（Ｂ）は図柄表示部の配置を示し、（Ｃ）は各図柄表示部に表示する図柄配列を示す図である。

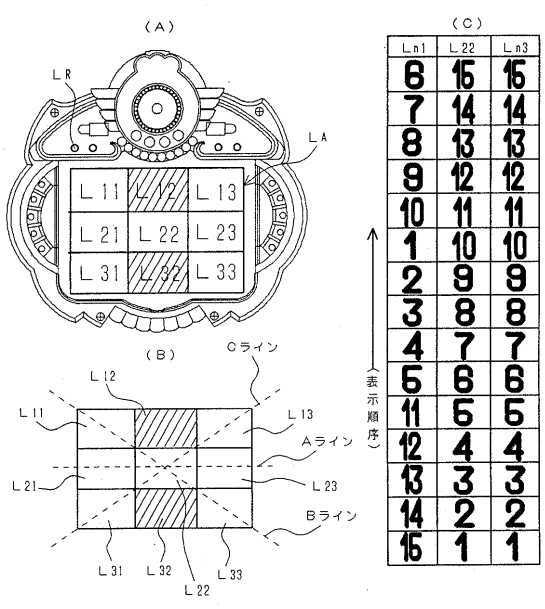
【図３】（Ａ）（Ａ’）はトリプルリーチ態様、（Ｂ）（Ｂ’）はダブルリーチ態様、（Ｃ）（Ｃ’）はシングルリーチ態様を示す図である。

【図４】遊技状態の変更を説明する図である。
【図５】（Ａ）は、第２実施の形態における一旦停止表示の大当たり状態を示し、（Ｂ）はそのときの図柄表示部の図柄配列を示す図である。
【図６】（Ａ）は、第２実施の形態における他の一旦停止表示の大当たり状態を示し、（Ｂ）はそのときの図柄表示部の図柄配列を示す図である。
【図７】（Ａ）は、第２実施の形態における他の一旦停止表示の大当たり状態を示し、（Ｂ）はそのときの図柄表示部の図柄配列を示す図である。
【図８】第３図柄表示部における図柄の他の配列を示す図である。
【符号の説明】
４ａ、４ｂ　普通図柄始動ゲート
５　普通電動役物
７　大入賞口
Ｌ　特別図柄表示器
Ｌ11、Ｌ21、Ｌ31　第１図柄表示部
Ｌ22　第２図柄表示部
Ｌ13、Ｌ23、Ｌ33　第３図柄表示部
Ａライン　Ｌ21、Ｌ22、Ｌ23
Ｂライン　Ｌ11、Ｌ22、Ｌ33
Ｃライン　Ｌ13、Ｌ22、Ｌ31

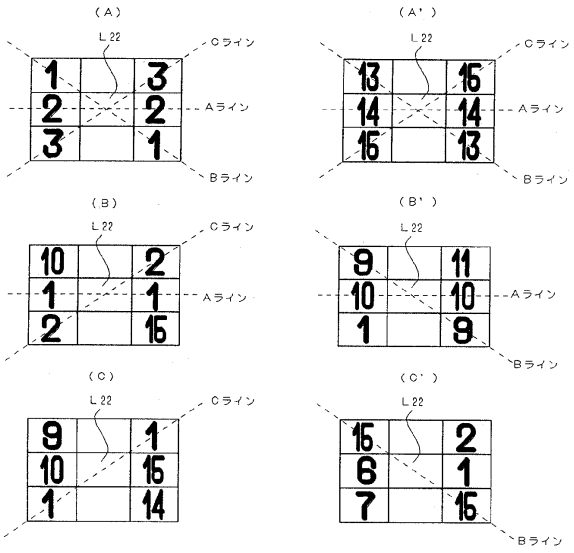
【図１】



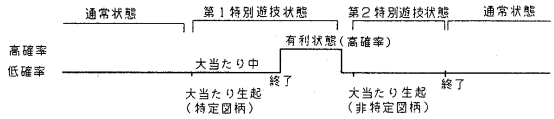
【図２】



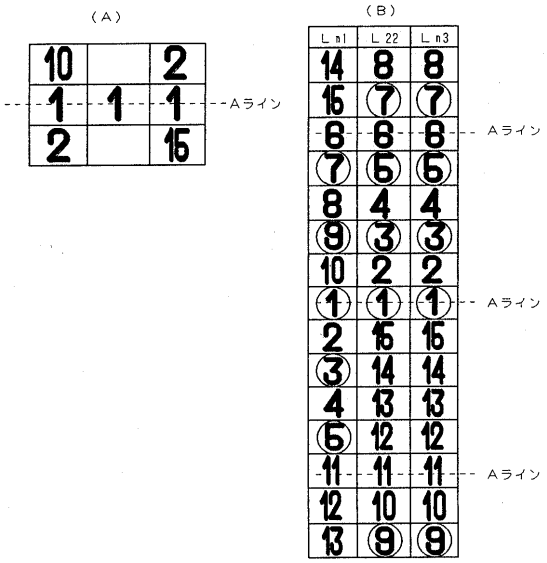
【図３】


（A）
L22
Cライン
Aライン
Bライン
（A'）
（B）
（B'）
（C）
（C'）

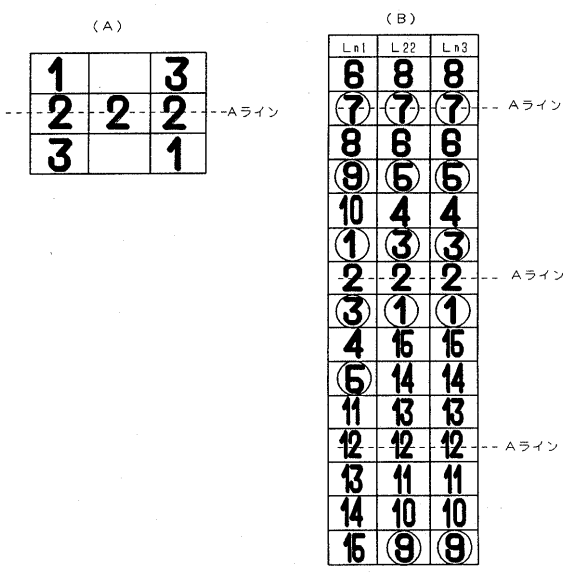
【図４】


通常状態
第１特別遊技状態
第２特別遊技状態
通常状態
高確率
低確率
有利状態（高確率）
大当たり中
終了
大当たり生起
（特定図柄）
大当たり生起
（非特定図柄）
終了

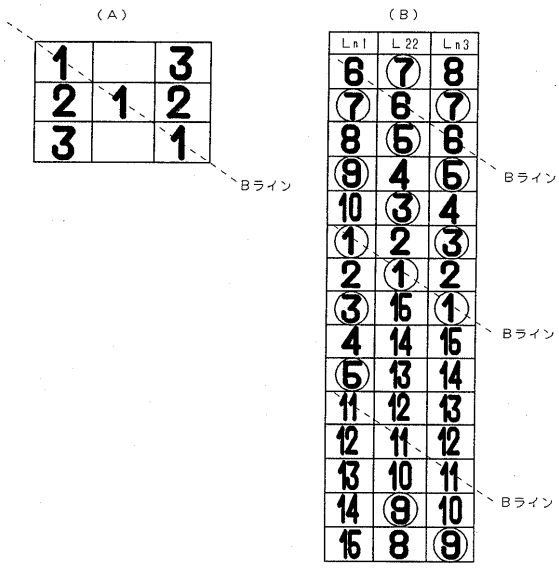
【図５】


（A）
Aライン
（B）
Ln1
L22
Ln3
Aライン
Aライン
Aライン

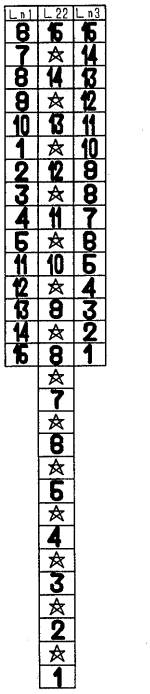
【図６】


（A）
Aライン
（B）
Ln1
L22
Ln3
Aライン
Aライン
Aライン

【図７】


（A）
Bライン
（B）
Ln1
L22
Ln3
Bライン
Bライン
Bライン

【図８】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平９－３８２９１（ＪＰ，Ａ）
特開平９－１３５９４７（ＪＰ，Ａ）
特開平８－３１８０３３（ＪＰ，Ａ）
特開平７－３２８２００（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
A63F7/02